

Couleur

— 移りゆく景色の中で —
クール・色調



「風景」油彩 1932

令和7年度後期展

野口彌太郎記念美術館

2025.8.26.TUE ▶▶▶ 12.28.SUN

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】月曜日(祝日をのぞく)

【入館料】一般100円, 小中学生50円(団体15名以上一般80円, 小中学生30円)

*市内の小中学生及び付き添いの方は、土曜日無料

【所在地】長崎市平野町7-8 平和会館1階

【問合せ先】095-843-8209

Couleur — 移りゆく景色の中で —

Couleur（フランス語、クルール）は、色調（色彩の濃淡強弱の調子）や精彩（美しい色どり）を意味します。野口彌太郎は、ヨーロッパで学んだフォービズム的体質と洗練された色彩感覚をもち、日本的フォービズムの典型を示したと言われています。

今年度は、野口彌太郎作品のなかから、特に色調・色彩に着目し、風景や人物など、色彩の濃淡や強弱によって生み出されるその光や影、静と躍動の美をとらえた作品をご紹介します。後期展では、“風景”を題材とした作品を主に展示します。野口は、風土などその土地の持つ空気感や、場所・時間によって表情が変化する景色の持つ色を捉え、色彩豊かに表現しています。また歳を重ねるごとに、その表現は進化し、勢いを増していました。

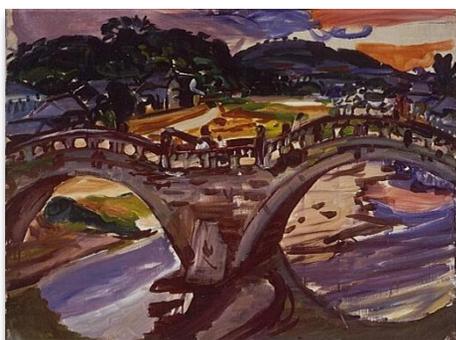
色使いに着目しつつ、様々な場所へ旅した気分をお楽しみいただければ幸いです



1



3



2

野口彌太郎（1899～1976）

日本の洋画家。独立美術協会所属。1973年『那智の滝』芸術選奨文部大臣賞（美術部門）受賞。

長崎とのかかわりは、12歳の時、父の郷里であった長崎県北高来郡小野村（現・長崎県諫早市小野町）に転入したことがきっかけでしたが、特に、戦後、両親が郷里の諫早市に転居したことで、たびたび長崎を訪れるようになります。

幾度も長崎を訪れ、時に数か月も滞在し、立体的な景色を形作る斜面地や逆光にくすむ夕暮れの長崎の風景を描くなかで、独特の鮮やかな色調を見出したといわれています。

1. オランダ坂, 不詳, リトグラフ, 6号相当 / 2. 諫早の眼鏡橋, 1958, 油彩, 25号F / 3. ニースのカーニバル, 1965, 油彩, 30号F

野口彌太郎記念美術館

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
 【休館日】月曜日（祝日をのぞく）
 【入館料】一般100円、小中学生50円
 （団体15名以上一般80円、小中学生30円）
 ※市内の小中学生及び付き添いの方は、土曜日無料

交通アクセス

長崎駅から
 路面電車▶ 長崎駅電停から赤迫行き
 （1番系統・3番系統）乗車、原爆資料館電停下車、徒歩3分
 バス▶ 住吉方面のバスに乗りし、浜町バス停にて下車。徒歩3分

※見学所要時間：約30分
 原爆資料館隣。原爆資料館からは館内通路で移動できます。

